

「大分県東九州新幹線整備推進期成会」設立趣意書

現在の我が国は、人口急減・超高齢化に直面しており、地方に人をつくり人を育て、仕事をつくり仕事を呼び、人と仕事の好循環で地域を活性化しようとする地方創生が大きな課題となっています。

また、東日本大震災を契機として、リダンダンシー機能の確保をはじめ、大規模災害等に備えた強靱な国土づくりが喫緊の課題となっています。

高速交通ネットワークは、都市間を短時間で結び、人・物の移動を支える重要な社会経済インフラであり、産業や人材を地方に呼び込むために不可欠なものです。

特に、定時性、速達性、大量輸送性に優れた新幹線は、大分県と各都市を結びつけ、新たな都市圏や商圈を生み出し、国内外からの観光誘客、企業立地等に大きなインパクトを与えるものです。東九州新幹線は、大分県の地方創生を実現するため、そして、大分県が将来世代にわたって繁栄していくため、必要不可欠な交通インフラとなります。

また、本年4月に発生した熊本・大分地震では、九州新幹線や九州自動車道が通行できなくなったことから、九州におけるリダンダンシー機能の必要性が再認識されたところであり、東九州地域を縦断する東九州新幹線は、九州新幹線と接続することで循環型のネットワークとなり、災害に強い九州づくりを進めるにあたっての重要な基礎となります。

高速道路については、平成28年4月に東九州自動車道が北九州市から宮崎市までが結ばれ、九州を循環するネットワークが完成したところです。しかしながら、新幹線は、九州新幹線鹿児島ルートが平成23年に全線開業したのに続き、西九州ルートについても開業に向けて手続きが進められていますが、東九州新幹線は昭和48年に基本計画路線となったまま動きがありません。

一方、政府・与党合意において、九州新幹線西九州ルートにくわえ、北陸新幹線及び北海道新幹線の開業時期が明記されたほか、リニア中央新幹線は計画前倒しが検討されており、整備計画路線は開業に向けた目途がついてきているところ、基本計画路線の格上げに向けた活動を本格化する時期が到来していると考えます。

現状を打破し、大分県そして九州にとって必要な東九州新幹線の整備を推進していくためには、県民が一体となって、より一層強力に国等に対して働きかけを行っていくことが必要です。

以上の趣旨に基づき、ここに、大分県東九州新幹線整備推進期成会を設立します。

平成28年10月27日

設立発起人

大分県議会議長	田中利明
大分県市議会議長会会長	永松弘基
大分県町村議会議長会会長	秦時雄
大分県商工会議所連合会会長	姫野清高
大分県商工会連合会会長	森竹治一